

【日曜講話】

諸の苦の因は貪欲が本

今頃の季節、郊外に車を走らせますと、田畑に農家の方が農作業をしている姿を、あちこちで見ることがあります。

以前、広基寺に行きました時に、檀家の農家の方に、よく農作業の話进行こうことがありましたが、そんな中で、田んぼは一反歩当たりどれぐらいの収穫があるのかを聞いたことがあります。

というのは、農地改革で、国が音頭を取って、バラバラだった田んぼを道路や水路を付け替えたり、まとめて作業しやすいように耕地整理が行われたのです。

そのために、当然ブルドーザーで山を崩したり低いところは埋め立てたり、土を押して、新しい水準にみな高さを揃えたのですが、そうすると、新しい土が入ると、途端に収穫が悪くなって、一年目、二年目は一俵半くらいしか取れなかったらしいのです。何もしないと一俵そこそ

こだということを開きまして、驚いたことがあります。

そのために、一所懸命田んぼに藁を鋤き込んだり、

肥料でもいろいろな肥料をその土地土地に合わせて調合して撒くなどするので、それがうまくいきますと、七俵とか八俵の収穫になるのだそうです。

昔の人は、そういう肥料を使うことが出来ませんでしたから、一所懸命働いても、収穫が少なかったですから、しばしば飢饉になることが繰り返されたのだと思います。今は、化学肥料を惜しげもなくどんどん撒いて、高い収穫を目指すのですが、これをしないと経営が成り立たないことになってしまふのだと思います。

何事でもそうですが、先にそういう施しをすることによって、はじめてそこから見返りが得られるということは、自然界の法則ではないかと思うのです。

仏教では、菩薩の修行に、いわゆる六度（布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧）の修行という基本的な修行が六つあ

って、あらゆる菩薩がその修行をするんだと説かれるのです。

そのことについて、私はなぜ一番最初に布施行があるのが、なかなか腑に落ちなかったのです。なぜ仏様や仏法に供養することが、修行の一番基本になるんだろうかと考えていましたが、最近そのことがよく分かってきました。

結局、自分の災いというのは、お経の中に、

「諸苦所因貪欲為本（諸苦の所因は貪欲これ本なり）」（譬喻品）

と書かれていて、あらゆる苦しみは貪欲の心から起こってくるんだ、貪欲とは自己中心的な、自分さえ良ければいいという心です。そのことがやがて苦しみをもたらし、地獄まで発展していくと説かれていふのです。

なるほどいわれてみれば、今のウクライナの戦争などを見ても、プーチンという一人の男の貪欲心、クリミア半島をまんまと手中に収めたから、今度はウクライナ全体を取ってやろう、ウクライナ全体を取ったら、もう一つ先のモルドバとかいろいろな国までもを、自分の手中に

収めようというような際限のない貪欲の心が、今の悲劇をもたらしているのだと思うのです。

おそらくよくマスコミでも報じられるように、プーチンという人は、貧しい不遇の青少年時代を送ってきたものですから、そのことに対するコンプレックスがあつて、その自分の満たされない思い、欲求不満が昂じてきて、そのことが貪欲ということを、あるいは力で相手を押さえ込んで自分の思いを遂げるということ繰り返してきて、それが成功してきたものですから、その成功体験が今の行動を取らせているのだと思うのです。

しかし、貪欲は、いずれどこかで破綻を来するのであつて、必ず大きな反動、しつぱ返しを受けるのだと思います。

北海道の知床の観光船の事故でも、やはり経営者の貪欲の心が強くて、利益ばかり考えていたことが、とんでもないことになってしまったのです。

安全対策を無視し、無線や修理費や人件費などのいろいろなものを節約して、自分の収益だけを考えてきた結果が、とんでもない破滅になってしまったのです。

貪欲ということは、結局自己中心的な利益を追求していくのですから、どうしても人間がいろいろな関係性の中で、ちょうど肥料を作物の根元に置くのではなくて、少し離れた周囲に撒いたり、水でも根の真上ではなく根の縁の辺に水を流していくのですが、そのようにほかのいろいろな生き物の命と、その関わりの中でこの世界が、生命が栄えているのですから、周りのことを良くしないと自分には渡らないのです。

家族や職場とか社会とか、それら全体が良くなっていけないと、自分がだんだん孤立していった、どこかで大変な争いやトラブルに巻き込まれて、地獄を見ることになってしまうのだと思います。

自分が今こうして生きていることは、決して貪欲の自己中心的な心ではなく、周りの関係者の中において、よりよく利他の精神をもって接しているところに、本当の繁栄があることを、自ずから教えているような気がします。

布施行については、財施と法施があり、大聖人はせめてすることがなければ和顔施といつて、笑顔で人に接しなさいとま

で指導されています。

あるいは法施と財施ということがあつて、法を施すということを、あるいは身施といつて、自分の身をもって施していくことを、どこかに心がけていったらいいのではないかと思います。

もちろん、人の為にしても、それが報われないこともありますし、あるいはそんなことは現実的に出来るわけがない、というお考えの方もいらっしゃるかもしれませんが、考えてみればほとんど普段は百パーセント自己中心的に生きているのですから、時にはより広い視野をもつて、みんなが良くなるようにというような、そういう心がけを起こすことによつてちやうど調和が持たれ、自分の我慢偏執の心が自然に解消していくのだと思います。

どうか、譬喩品の中に、「諸苦所因貪欲為本」と書かれていて、諸の苦の原因は貪欲の心であるということを、心に銘じて、自分の人生をより有意義にすべく頑張っていきたいと思ひます。

と書かれていて、諸の苦の原因は貪欲の心であるということを、心に銘じて、自分の人生をより有意義にすべく頑張っていきたいと思ひます。